



甲南第一小学校だより

# 第一っ子



令和6年7月1日

(2024年度)

第4号

甲南第一小学校



## 『 I have not failed 』

月日が経つのは早いもので、もう7月です。夏休みまであと20日ばかりとなりました。7月といえば、旧暦名で「文月（ふみづき）」という異名があります。その由来は、書道の上達を願った「文被月（ふみひろげづき）」や、稲穂が実る月という「穂含月（ほふくみづき）」が転じたなど諸説あります。また、英語では7月を「July」と訳します。これは古代ローマの政治家ユリウス・カエサル（Julius Caesar）の名前が語源だそうです。ユリウス暦（太陽暦）を

創るに当たり、ユリウス自身の誕生日が7月だったので、「July」と名付けられたとされています。何はともあれ、暑さ益々厳しくなる7月です。特に「熱中症」には気を付けながら元気に夏休みが迎えらるるよう、引き続き、子どもたちの健康管理にも努め、その「成長」をしっかり支えていきたいと思ひます。

さて、子どもたちが健全に「成長」していくためには、「成功体験」の積み重ねが大切だと言われています。少し話が横道にそれますが、「最初に電球を発明した人は？」と聞かれた時、エジソンと答える人が多いのではないのでしょうか？ 実はエジソンではなく、スワンという人がエジソンよりも1年も前に発明に成功しています。では、電球の発明についてエジソンのほうが有名になったのはどうしてでしょうか？それには発明した電球の点灯時間が関係しています。スワンの電球は40時間しか点灯しなかったのに対して、エジソンのものは1000時間も点灯し続けたことが、世に電球が広がるきっかけとなったからというのが理由なのですが、そんな電球の「成功」がすぐに成し遂げられたわけではありませんでした。実に1万回、いや2万回といわれる実験（失敗）を経て、ようやく1000時間に到達したのです。「成功」は、まさに「失敗」の積み重ねから得られることを私たちに伝えてくれています。そして、エジソンは、この「失敗」について、インタビューの中で、「I have not failed.」と答えたそうです。つまり、「失敗」ではなく、新しい発見がたくさんできたということ、それは「成功」なのだ。そして、「成功」のためには、無理だと思わず、もう一回、もう一回と可能性を信じて頑張ることが秘訣であることも伝えてくれました。

話を戻しますが、子どもの「成長」というのは、エジソンの実験のように、まさに「失敗」の繰り返しではないのでしょうか。「失敗」するたびに新しい発見をし、それが力となり、次に活かされ、また新たな「失敗」をし、新しいものを得ながら少しずつ逞しくなっていく、そのような「失敗」の中に見つける新しい発見と次へのエネルギーの積み重ねこそが、真の「成功体験」であり、生きる確かな力となっていくのだと考えます。

私たち子どもの「成長」にかかわるものは、「失敗」をポジティブにとらえ、活かすことを大切にしていかなければなりません。そして、その中心となる学校こそが、「失敗」を「成功体験」につなぐ、学びの場となるように、教職員一同力を尽くしていきたいと思ひます。

甲南第一小学校 校長 松山 辰也

### プール開き



6月10日にプール開きがあり、水泳の学習が始まりました。水泳が上手になるコツや約束を子どもたちに話しました。しっかり練習して少しでも長い距離が泳げるようになってほしいと思ひます。



### 創立123周年

7月1日には創立123年目を迎えます。本年度キャッチフレーズ「つながり 支え合う 学校 心・技・体・絆」のもと子どもたちの主体的な学びを大切にしながら、第一小の歩みを着実に前に進めていきたいと思ひます。

### 甲南第一小学校 教育後援会

5月23日、教育後援会常任委員会が開催され令和6年度の役員様が選出されるとともに事業計画のご協議をいただきました。

また、毎年、多数の学区民の方々よりご賛同を頂戴し、昨年度も、児童用下駄箱の購入や入学式・卒業式の看板を新しくしていただくなど、本校教育へのご支援、ご援助をいただきました。

改めて深くお礼を申しあげますとともに、「地域の宝」としてお預かりしている子どもたちの教育に一層役立てていきます。



ひとみ輝く第一っ子 よく学び・心豊かに・健やかに